

飾^{しき} 芦^{あし} 分 教 会

設立・昭和25年4月25日

祭典日・11日

兵庫県西宮市



初代会長
竹川 茂之



初代夫人
竹川 くにゑ



二代会長
竹川 茂一



二代夫人
竹川 正子



三代会長
竹川 耕太郎

昭和二十五年四月二十五日

初代会長 竹川^{たけがわ} 茂之^{しげゆき} 任命

昭和五十二年四月二十六日

二代会長 竹川^{しげかず} 茂一^{しげかず} 任命

平成二十一年 六月二十六日

三代会長 竹川^{こうたろう} 耕太郎^{こうたろう} 任命

飾芦の初代会長竹川茂之は十五才の頃、飾磨栄町で染物業〈岡田旗店〉を営んでいた岡田儀一の許へ、姻戚を頼って丁稚見習いに来ていた。

店主の娘が小児麻痺であり、飾磨分教会から布教師が度々おたすけに運んできていた。布教師がおたすけの折に説くご教理に、聞くとはなしに耳を傾けていた茂之はいたく感動し、自ら教えを求めて飾磨分教会に参拝するようになった。

お聞かせいただく教えの理に胸打たれた茂之は求道の念除しがたく、ついに主人に許しを請い、昭和五年一月、別科四十四期生としておぢばに帰らせていただいた。十九才であった。

別科修了に当たり、信仰を取るか、職人として修業を続けるのか岐路に立つや、ためらうことなく、よふぼくとしての道を選んだ。

当然の結果として、店を辞去せねばならなくなり、飾磨分教会の本庄寧彦会長

の指示を受け、飾大分教会へ住み込むこととなった。

飾大の初代竹川萬次会長の厳しい仕込みを受けながら、六年間、青年として懸命に伏せ込み、布教師としての研鑽を積んだ。

昭和十一年六月一日、念願かない、飾大分教会初代会長の許しを得て、命ぜられるまま、兵庫県芦屋市へ単独布教に出生した。

縁あって都藤^{とよふじ}くにゑと結婚。くにゑは飾大初代の姪であり、当時飾大に住み込んでいた。結婚と同時に飾大の竹川家の分家として勤めさせていただき、夫婦揃うてたすけ一条のご用をさせていただくこととなった。

野宿から始めて九ヶ月後、芦屋市松ノ内町九八番地に、借家ながら布教の拠点にふさわしい家が見つかり、昭和十二年十二月十日、飾道集談所を開設する御守護をいただいた。

昭和十三年六月、阪神大風水害の直撃を受けたが、茂之、くにゑ夫婦はひるむことなく、それを節として一層の布教に励んだので、教勢は一層伸展した。しかしながら、第二次世界大戦が勃発。戦時体制の強化、海軍に応召されるなど、布教活動は頓挫を余儀なくされ、昭和二十年八月の終戦を迎える。



芦屋時代の教会

無事帰還を果たした茂之は、その喜びを込めて、飾道布教所として思い新たに布教活動を再開した。活動を展開した。

昭和二十三年三月、飾大分教会初代会長、竹川萬次が出直した。



震災以前の西宮の教会

突然の大節に遭遇するも、飾大分教会において役員、信者は更なる奮起を決意した。竹川としゑを二代会長に戴き、永年にわたってお育ていただいたご恩に報いる方途を求め、練り合い、談じ合いが重ねられたのである。

その渦の中、茂之は、己が成人の遅れを痛感した。理の親と仰ぎ慕い、師と尊ぶ、初代のご恩に報いるに教会設立を以

てなす心を定めお誓い申し上げた。信者の人々にも、今こそ一步の成人をという気運がみなぎり、ここに教会設立の準備が始まった。



阪神大震災での被災状況

昭和二十五年初頭から神殿増改築が始まり、いざ教会本部へ設立の出願せんとしたその矢先の二月の下旬、三女ます子が小児麻痺を発症し、三月二十八日出直した。報恩の心をかため、教会設立に燃え立っていた茂之、くにゑ夫婦への試練はまことに厳しいものであった。

この節に際し、竹川とし、糸飾大二代会長は「教会になれば苦勞するのではな
いか、という夫婦の先案じから、なかなか
か肝が決まらなかつたので、教祖の深い
思召から三女を迎え取つてでも助けたい
という親心なのだ」と諄々と諭した。そ
の親心が、夫婦に不退転の心を定めさせ、
教会設立の心棒をいれて下されることになつた。

四月二十五日、竹川茂之を初代会長として教会設立のお許しを頂き、五月十一日、奉告祭が賑やかに執行された。

昭和三十年には大垣市に飾誠布教所を開設し、改式世帯七軒、教人三名、修養科修了者九名、よふぼく二十八名という教勢にまでご守護をいただいている。

昭和四十四、五年頃、家主との間に家屋明け渡しの事情が起き、調停裁判へ発展した。

竹川茂之の会長はこの事情の解決に苦慮し、役員信者も頭を痛めた。設立当初から未解決のまま残されてきた問題なのである。事ここに至つて、会長はじめ役員信者一丸となつて教会移転に取り組む心が定まつた。

これはと思われる移転地を見つけてきては、竹川俊治飾大三代会長に相談するが頭を振つていただけでない。箸にも棒にもかからぬ相談だったのである。いっそのこと、三田か、姫路の奥にでもとの意見には、「阪神間には土地はなんぼでもあるのや。無いのは神様のご守護だけで」ときつぱりとお仕込み下された。



復興なった現在の教会

その声を頼りに当てどもない努力を続けたがどうしても埒があかない。昭和四十八年九月半ば、とうとう竹川俊治会

長を西宮に案内することになった。

目論みの物件は決して安価ではなく、むしろ飾芦の力においては大きな頑張りが必要な高値である。飾大三代会長は飾芦一同の心根を見据え、ついにゴーサインを下した。匂が満ちていることを、加えて役員、信者が一手一つに結ばれることを、そして何よりも親神様のお働きを、肌で感じ取られたゆえに違いない。

当時三年と年限を切つて、東京都武蔵野市で単独布教に励んでいた後継者竹川茂一、正子夫婦が直ちに呼び戻された。お礼参拜に飾大分教会へ運んだ茂一に、飾大三代会長は次のように諭した。「飾芦にとつては、最初で、お父さんにとつては、最後のチャンスやと思う。しっかりと働かしてもらいや」と。

昭和四十八年十一月七日、西宮市中屋町四番八号の現在地に、木造平屋一棟、宅地六十坪を取得する契約が結ばれた。

オイルショックのまつ只なか、超金融引き締め状況の中で、手順良く事を運んでいただけたのは、まさに親神様のお働きというほかはない。

昭和四十九年二月二十六日、移転建築

のお許しをいただき、五月十一日、教会移転落成奉告祭を執行した。設立以来二十五年の大願が成就した感激と涙が境内地に満ちた。

昭和五十一年、教祖九十年祭が執行された。その年の十二月二十八日会長が倒れた。右半身不随であり、脳梗塞によると診断される。この節を台に、翌年四月二十六日、後継者竹川茂一に担任変更のお許しを頂くべく出願した。

昭和五十二年五月一日、二代会長就任奉告祭が執り行われた。

昭和五十五年三月二十六日、建築模様替え及び神殿増改築のお許しを頂いた。移転の際の計画を練り直し、事改めて出願したのである。総二階建て、建坪八十坪。二階神殿で、参拝場は間口四間、奥行き五間という普請に成った。

神殿落成奉告祭は十一月九日であった。昭和六十一年、教祖百年祭が盛大にとめられたその年の十月十六日、初代会長竹川茂之が出直した。朝勤めの拍子木の音を聞きながらの静かな出直しであった。

た。享年七十七歳。

教祖百年祭の旬には、布教所を二力所お与えいただいた。芦屋市に首藤勇馬を所長として打出浜布教所、西宮市に尋木俊成を所長として飾甲布教所である。



三代会長就任奉告祭時の上段

平成七年一月十七日、思いも寄らざる阪神淡路大震災に遭遇し、教会は全壊した。役員信者宅も全焼、全壊を含め、あちこちで大きな被害を蒙り途方に暮れた。

しかしながら所属よぶ多くの人身に、直接の被害が及ばなかったのは、不思議で誠に有難いことであった。

真柱様から（復興の種）を頂戴した。加えて教会本部、飾東大教会、飾磨、飾大をはじめとして、各地の教友、飾芦の役員、よぶぼくは勿論のこと、数え切れない人々の真実に支えられ、倒壊した神殿跡地に仮設建物を設置させていただき、布教活動も滞ることなく継続することが出来た。

神殿再建計画は、鉄骨三階建・総建坪百坪とかたまり、設計、出願の上、早くも平成八年中に完成を見た。

平成二十一年二月二十四日二代会長茂一は身上のため七十二歳をもって出直す。三代会長として後継者の竹川耕太郎が平成二十一年六月二十六日にお許しを頂き、九月六日に就任奉告祭を執行。三十二歳の三代会長は飾磨では一番若い会長であった。